

2017年度 英語部会研究計画

I. 研究主題

コミュニケーション能力の育成をめざす授業の創造
～積極的にコミュニケーションする態度を養うために～

II. 研究目的

○英語学習の目的

聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養い、世界の人々との理解・連帯を進められるような態度の育成を図る

○今日的課題

- ・国際社会に生きる日本人としての資質、能力の育成
- ・石狩の子のための教科指導の専門性の向上
- ・学習方法（指導方法）の工夫
- ・よりよい評価をするための教員の研修
- ・小学校外国語活動との連携
- ・英語を通しての平和・環境・人権学習

2017年度

石教研専門部会研究基本姿勢

「“協働”研究で紡ぎ合う石狩の実践
～夢に向かって挑戦する子どものために～」

専門部会テーマ

取り組むべき視点を明確にした日常実践のさらなる充実

研究の経過

2016年度は中学校2学年、小学校1学年の公開授業およびテーマ別学年別分科会による討議、ワークショップによる実践研修、理論・実技研修会（夏期、冬期の2回）を実施

研究仮説

英語教育における、確かな学力の定着を図る学習指導のあり方、生徒の学習意欲が向上する評価の方法について研究する。小学校は「聞くこと」「話すこと」、中学校ではそれらに「読むこと」「書くこと」を加えた4技能をバランスよく総合的に育成することを意識した授業を構築することで、英語で積極的にコミュニケーションを図る態度を育成することができる。

III. 研究内容

1. 本年度の研究内容（研究課題）

- ①研究内容1 『つまずき解決のための学習支援、学習訓練の工夫』
- ②研究内容2 『生徒の学習意欲が向上する適切な評価の在り方、単元テストや課題の設定方法』
- ③研究内容3 『教材・教具や場面設定の工夫、英語での言語活動の充実』
- ④研究内容4 『小学校外国語活動と中学英語の連携、課題と解決策の交流』
- ⑤研究内容5 『小学校外国語活動の実践交流、小学校外国語活動における課題と解決策の交流』

2. 研究推進にあたって

① 研究の経過と課題（4つの研究内容）設定の理由

2009年度より「コミュニケーション能力の育成をめざす授業の創造」を研究主題に据え、研究をすすめてきた。2012年から新学習指導要領に基づいた新課程（週4時間の授業時数・指導する語数：1200語程度）による授業が中学校で行われた。小学校でも2009年に小学校学習指導要領の改訂が告示され、2012年からの新学習指導要領では小学校5・6年生で週1コマ、「音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うこと」を目標として、「外国語活動」の授業が行われてきた。これらの研究が授業に、学習者に、指導者にどのような変化がみられたのかを振り返り、整理し、どんな形で「コミュニケーション能力の育成をめざす授業の創造」につながったのかを検証することが重要である。現在の学習指導要領では、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」となり、あらためて4技能が強調されることとなった。また、英語科での「コミュニケーション能力の育成」はもちろんのこと、他の教科においても、「言語活動の充実」として小中学校での今日的課題となっている。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方として、小学校3・4年生で年間35単位時間の活動型の「外国語活動」、小学校5・6年生で年間70単位時間の教科型の「英語」、中学校では「授業を英語で行う」など、コミュニケーション能力を確実に養うための手段を盛り込んだ学習指導要領が、2018年から段階的に先行実施、そして2020年から全面实施となる。

これらを踏まえ、外国語教育が目指すものを再確認する必要がある。研究・研修を進めるうえで、今までの英語教育と今後の流れをつかみ、どのような授業を行えば、英語教育の目的が達成できるかを研究する。さらに現在、英語部会の中に位置づけられている「小学校外国語活動」においても、教科化されることから、研究とあわせて、独立した分科会への検討、準備も平行して進めていく。

英語はコミュニケーションの手段である。私たちは外国語学習を単に技能修得の実用的な面のみ教えること（「技能としての英語」）だけでなく、外国語学習を通して生徒の自ら学ぶ意欲を高め、豊かな心をはぐくむためのものであること（「英語を通しての陶冶・教養・人格の形成」）を忘れてはならない。あらためて「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能の総合的な指導の重要性が、統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するために必須である。今年度もコミュニケーションを支える意欲や自信が、英語の授業の中で、バランスのとれた4技能の学習を継続することで、コミュニケーションを積極的に行う態度が培われると仮定し、研究テーマを「コミュニケーション能力の育成を目指す授業の創造～積極的にコミュニケーションする態度を育成するために～」として、さらに研究を深化させていきたい。

② 基本方針

- (1) 部会員全員で研究できる共通の課題を設定し、部会員全員で研究を交流し研鑽する。
- (2) 研究課題の解明、および部会員の研修活動の強化・充実を目的として専門二次研究協議会、理論・実技研修会を実施する。実施にあたっては多くの部会員が参加しやすいように、内容・時期・場所に配慮する。
- (3) 各市町村の研究団体は地域ごとに連帯し、推進委員を通して管内の共同研究と連携を保ち、主体的な研究を推進する。
- (4) 小学校外国語活動小委員会の活動を充実させ、多くの授業実践の交流から課題解決を目指すとともに、小中の英語教育の有効な連携を図る。

3. 研究方法及び研究体制

部会員は個人・校内および市町村単位で石教研英語部会が設定した研究主題について、授業実践を通して究明していく。尚、その研究成果や課題の交流は次の方法で行う。

1. 専門部会第二次研究協議会と授業公開

(1) 専門部会第二次研究協議会では授業公開を行い、課題解明のための討議の材料とする。また、ワークショップとして6名の先生に実践を発表してもらう。研究内容を学年の実態に応じてさらに深めるために内容別（学年別）分科会を構成して課題解決のための研究交流を行う。

(2) 部会員はグループA・B・C・Dのいずれかについてレポートを作成し、分科会で協議、研究する。

＜グループA「学習支援と評価」＞ 研究内容1・2

- ・つまずきの解決支援、学習訓練など指導方法の工夫
- ・生徒の学習意欲が向上する適切な評価のあり方、そのためのテストや課題・宿題の設定について
* 授業実践のレポートや資料、指導案などを交流しながら指導方法や評価方法について研究する。

＜グループB「教材・教具や場面設定の工夫」＞ 研究内容3

- ・教材・教具の工夫～ワークシート、インタビュー、導入の案、自主教材、授業で使ったVTR、聞き取りテスト等で用いたCD・MDなどの交流
- ・ICT機器等を活用した指導の工夫～パソコン、iPad、iPod、iPhone、書画カメラ、電子黒板の活用、コミュニケーション活動の場面設定（買い物・道案内・スキット・ディベートなども含む）
- ・Team-Teachingの工夫～ALTとの実践、JTE同士のT-T、グループ学習などの指導形態の工夫
* 教材の実演や模擬授業を通して言語活動の実践を交流する

＜グループC「小学校外国語活動と中学英語の連携」＞ 研究内容4

- ・小学校外国語活動から中学校英語へ。連携できること。相互理解。
- ・小学校外国語活動と中学英語の連携に関わって、互いの課題と解決策の交流。

＜グループD「小学校外国語活動」＞ 研究内容5

- ・小学校外国語活動の実践交流
- ・小学校外国語活動における課題と解決策の交流
※小学校外国語活動には国際理解の視点も含まれているが、本部会の研究主題は、コミュニケーション能力の育成に重点をおく。

(3) 専門第二次研究協議会

2016年 江別、2017年 石狩、2018 千歳、2019 恵庭、2020年 北広島

2. 理論・実技研修会（サマーセミナー、ウインターセミナー）の開催

英語教育において、その研究と実践に優れた識見、実績をもつ方を講師として招き、研究主題に迫る講演や授業実践の紹介、実技研修など英語教育の今日的な問題提起や解明を行ってもらい、研究を深める。

3. 部会報「石英」の発行

部会および市町村の研究交流を活発にするために、石教研英語部会情報誌「石英」を発行する。
また、個人研究、実践の交流など、日常実践に利用できる資料提供の場としても活用する。

4. 実践資料集の発行

テーマに基づき、部会員の実践資料を募集し活用に資する。(例 授業で用いたプリント集、定期テスト問題集など)

5. 新入会員研修会

新入会員を対象に石教研専門部会英語部会の活動の説明を行い、授業を行う上での課題を交流する。

6. 教育課程の研究

石狩の「教育課程」の実践・検証を進める。また、より良い教科書を作成してもらうために教科書に対する意見や要望を集約して、それを教科書会社に検討してもらう活動を行う。

7. 各種研究会の還流活動

前年度の主な研究会の提言者は、第二次研究協議会において、その内容を他の会員に簡潔に報告する。
また、提言したレポートについては、第二次研究協議会の個人レポート集に入れて他の会員に還流する。

8. 中文連事業への協力 石狩管内英語暗唱大会専門委員への協力 ※25年度から会場が「江別えぼあホール」に固定

(1) 江別からは開催地枠として原則毎年1名を選出。ただし、委員長、副委員長は免除とする。

(2) 江別以外の地区から、毎年2名の担当者を選出。下表を参照。 ※敬称略

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
江別	○山口(第一)	○伊勢谷(江陽)	○今井(大麻)	○長谷川(大麻東)	○	○
石狩	◎加藤(花川南)			○横田(樽川)	◎横田(樽川)	
恵庭	○川本(恵み野)	◎川本(花川南)			○	◎
千歳		○今野(北斗)	◎今野(北斗)			○
北広島			○藤本(大曲)	◎藤本(大曲)		

(3) 国語科3名、英語科3名の計6名で担当する。

9. 年間の予定

4月 石教研第1次研究協議会 第1回 役員・推進委員研修会	10月 拡大推進委員研修会 専門部会第2次研究協議会 新入会員研修会(13日・金)
5月 専門部会役員研修会	11月 第2回専門部会事務局長研修会
6月 第2回 役員会・推進委員研修会	12月 第4回役員・推進委員研修会
7月 第1回専門部会事務局長研修会	1月 第5回役員・推進委員研修会 理論・実技研修会(ウインターセミナー)
8月 理論・実技研修会(サマーセミナー)	2月 実践資料集発行
9月 第3回 役員・推進委員研修会	3月

(文責 江別市立江別第三中学校 岡田 智広)